

# 川越市の地域特性

## 1. 支会の概況

面積、人口、高齢化率等の地域特性及び需要について、以下に示します。

	本庁管内	山田支会	名細支会	川鶴支会	霞ヶ関北支会	霞ヶ関支会	大東支会	福原支会	高階支会	南古谷支会	古谷支会	芳野支会	川越市全域	備考	
面積	1,719ha	618ha	1,143ha	69ha	189ha	1,158ha	1,130ha	1,199ha	620ha	885ha	1,215ha	1,024ha	10,968ha	GISによる計測	
人口	高齢者以外 (64歳以下)	79,841人	8,584人	22,637人	5,106人	10,515人	25,666人	27,448人	14,992人	37,747人	18,565人	8,536人	4,498人	264,135人	平成27年度国勢調査の 500m人口メッシュ データを基にGISによ り計測
	高齢者 (65歳以上)	24,862人	2,644人	8,194人	1,860人	5,028人	8,553人	8,108人	5,822人	13,286人	4,883人	3,135人	1,414人	87,789人	
	総人口	104,703人	11,228人	30,831人	6,966人	15,543人	34,219人	35,556人	20,814人	51,033人	23,448人	11,671人	5,912人	351,924人	
高齢化率(65歳以上)	23.7%	23.5%	26.6%	26.7%	32.3%	25.0%	22.8%	28.0%	26.0%	20.8%	26.9%	23.9%	24.9%		
地域通 人空 口白	高齢者以外 (64歳以下)	5,584人	2,672人	5,763人	175人	203人	5,308人	5,266人	5,644人	5,454人	6,742人	2,433人	2,996人	48,240人	
	高齢者 (65歳以上)	1,809人	760人	1,624人	48人	116人	1,580人	1,644人	1,982人	1,703人	911人	975人	15,593人		
	総人口	7,393人	3,432人	7,387人	223人	319人	6,888人	6,910人	8,085人	7,436人	8,445人	3,344人	3,971人	63,833人	
移動ニーズ (上位3支会)	-	本庁8.4人/日 山田8.3人/日 古谷0.4人/日	名細9.7人/日 本庁7.9人/日 霞ヶ関北5.8人/日	-	-	霞ヶ関北4.7人/日 霞ヶ関4.3人/日 本庁2.1人/日	本庁16.3人/日 大東4.1人/日 南古谷1.7人/日	本庁12.4人/日 高階9.2人/日 福原4.2人/日	高階22.3人/日 本庁6.7人/日 南古谷3.0人/日	南古谷12.5人/日 本庁5.3人/日 高階1.0人/日	本庁16.0人/日 南古谷11.8人/日 古谷3.6人/日	本庁7.3人/日 山田3.4人/日 南古谷1.8人/日	-	平成28年度川越市地域 の交通実態に関するア ンケート調査より分析	
需要 (ミニシャトル・ デマンド型交通)	人口ベース	125.0人/日	13.3人/日	39.0人/日	8.8人/日	21.9人/日	41.9人/日	41.6人/日	27.0人/日	63.8人/日	26.3人/日	14.8人/日	7.1人/日	430.6人/日	アンケートより年代別 の利用率より試算 (64歳未満)0.06% (65歳以上)0.31%
	交通空白地域人口 ベース	9.0人/日	4.0人/日	8.5人/日	0.3人/日	0.5人/日	8.1人/日	8.3人/日	11.0人/日	9.4人/日	9.3人/日	4.3人/日	4.8人/日	77.3人/日	
需要 (タクシー補助)	人口ベース	178.0人/日	19.1人/日	52.4人/日	11.8人/日	26.4人/日	58.2人/日	60.4人/日	35.4人/日	86.8人/日	39.9人/日	19.8人/日	10.1人/日	598.3人/日	東松山市の利用率 (0.17%)より試算

### < 計算例 >

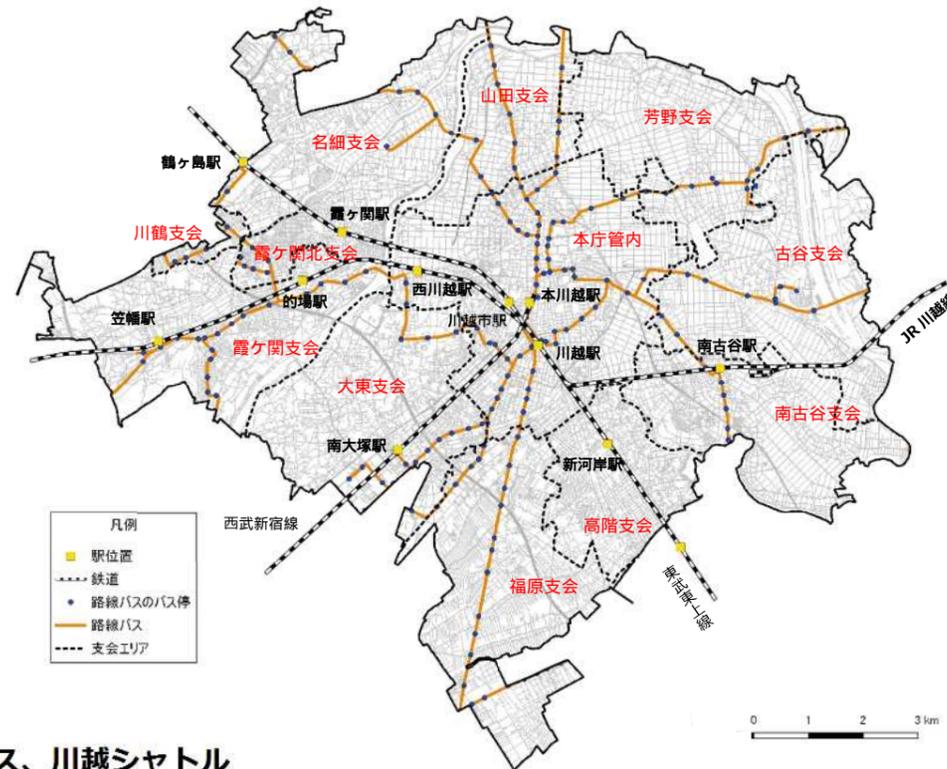
- ・需要(ミニシャトル・デマンド型交通) 人口ベース 「本庁管内 125.0人/日」 = 79,841人(64歳以下人口) × 0.06%(64歳以下利用率) + 24,862人(65歳以上人口) × 0.31%(65歳以上利用率)
- ・需要(タクシー補助) 「本庁管内 178.0人/日」 = 104,703人(人口) × 0.17%(東松山市利用率)

利用率は、参考資料3に算出根拠を示すものとします。

## 2. 公共交通ネットワーク

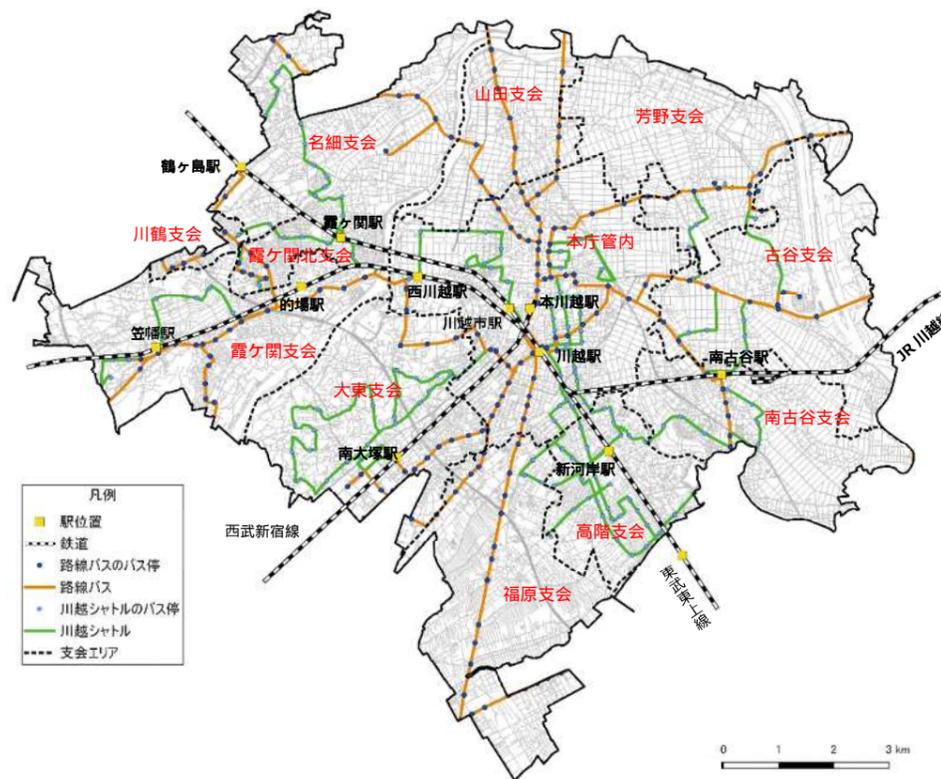
### (1) 鉄道と路線バス

鉄道と路線バスのネットワークは下図のとおりです。



### (2) 鉄道と路線バス、川越シャトル

前項に川越シャトルを重ねたネットワークを示します。



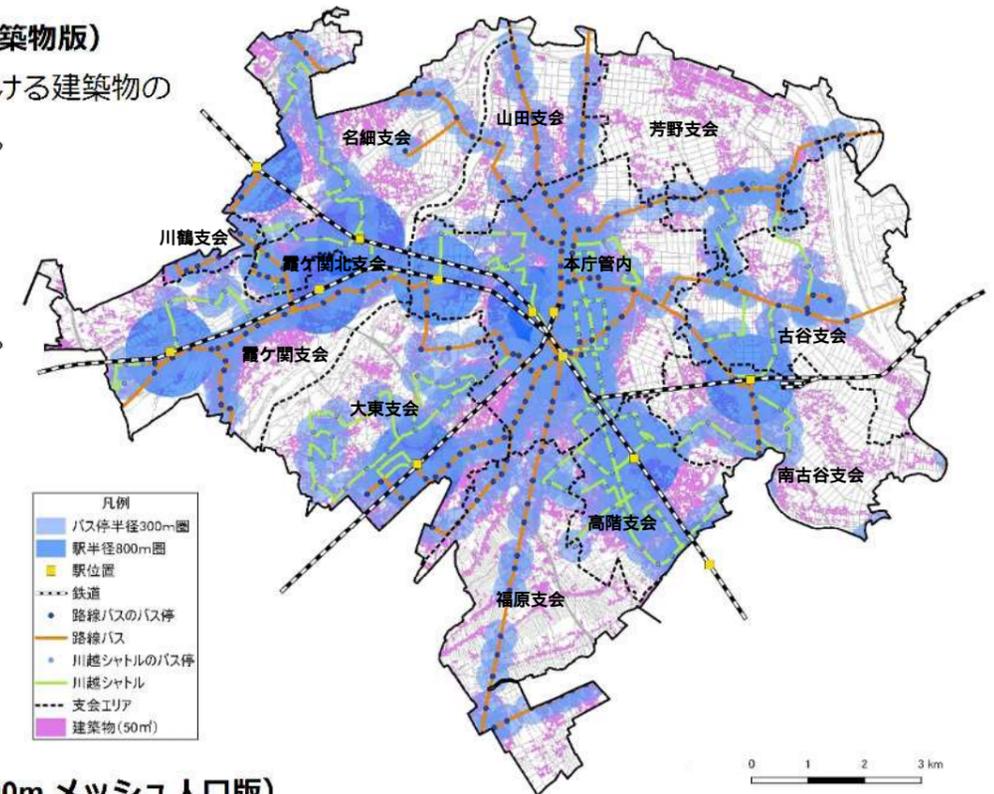
## 3. 交通空白地域の状況

川越市では、鉄道駅から半径 800m 圏、バス停から半径 300m 圏以外のエリアを交通空白地域と定義しています。

### (1) 交通空白地域（建築物版）

交通空白地域における建築物の分布状況を示します。

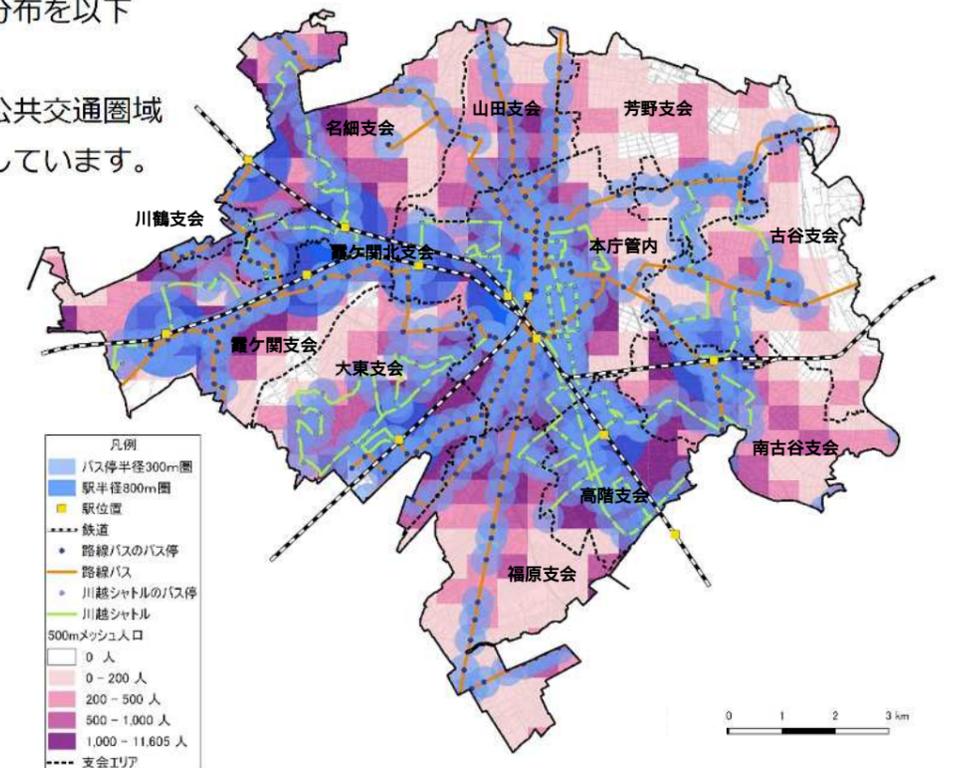
これにより、人が住んでいるエリアと住んでいないエリアが概ね把握できます。



### (2) 交通空白地域（500m メッシュ人口版）

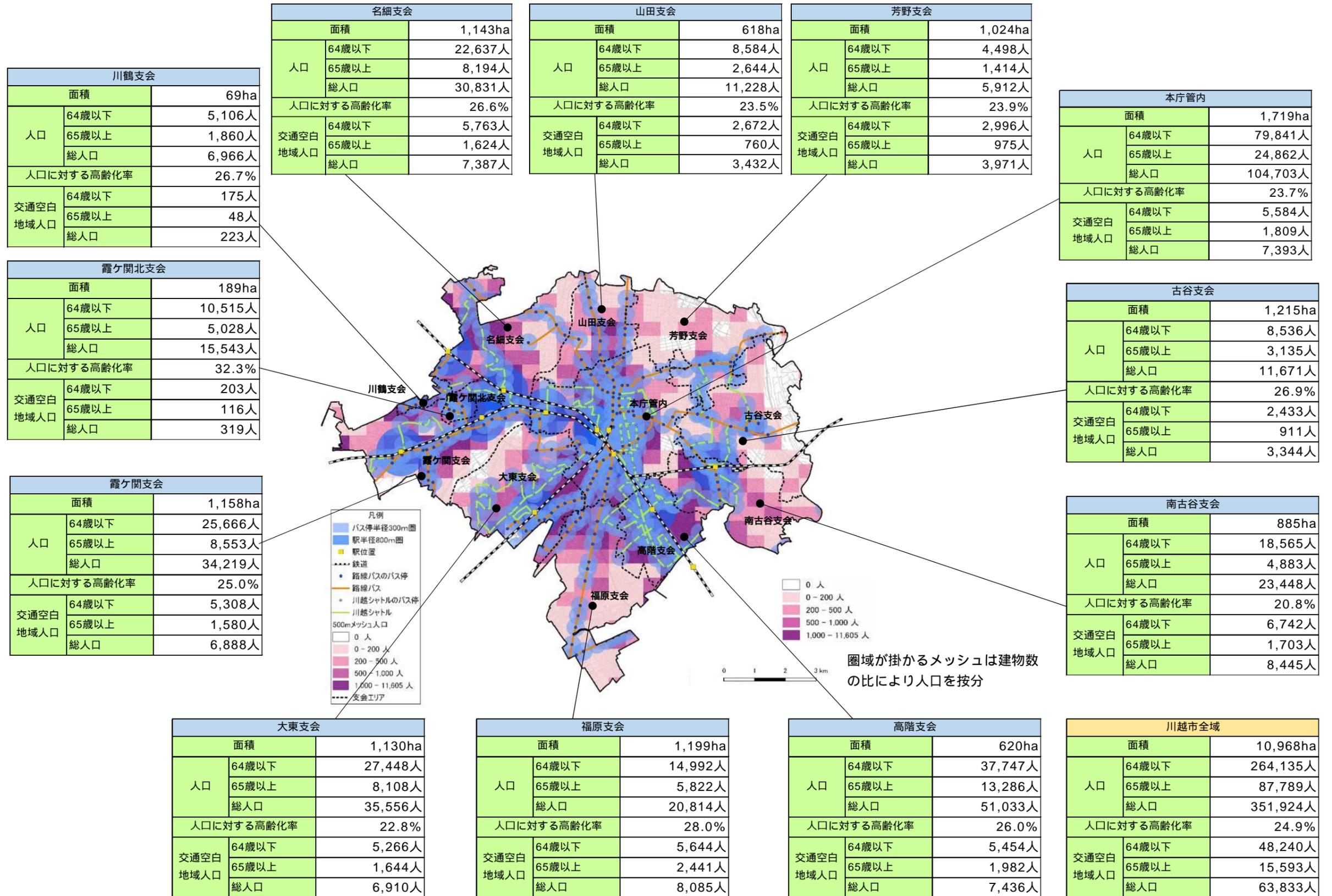
500mメッシュ人口により交通空白地域の人口分布を以下に示します。

駅、バス停の既存公共交通圏域の周辺に人口が集中しています。



#### 4. 支会単位の人口及び交通空白地域人口

支会単位の人口、交通空白地域人口等について示します。

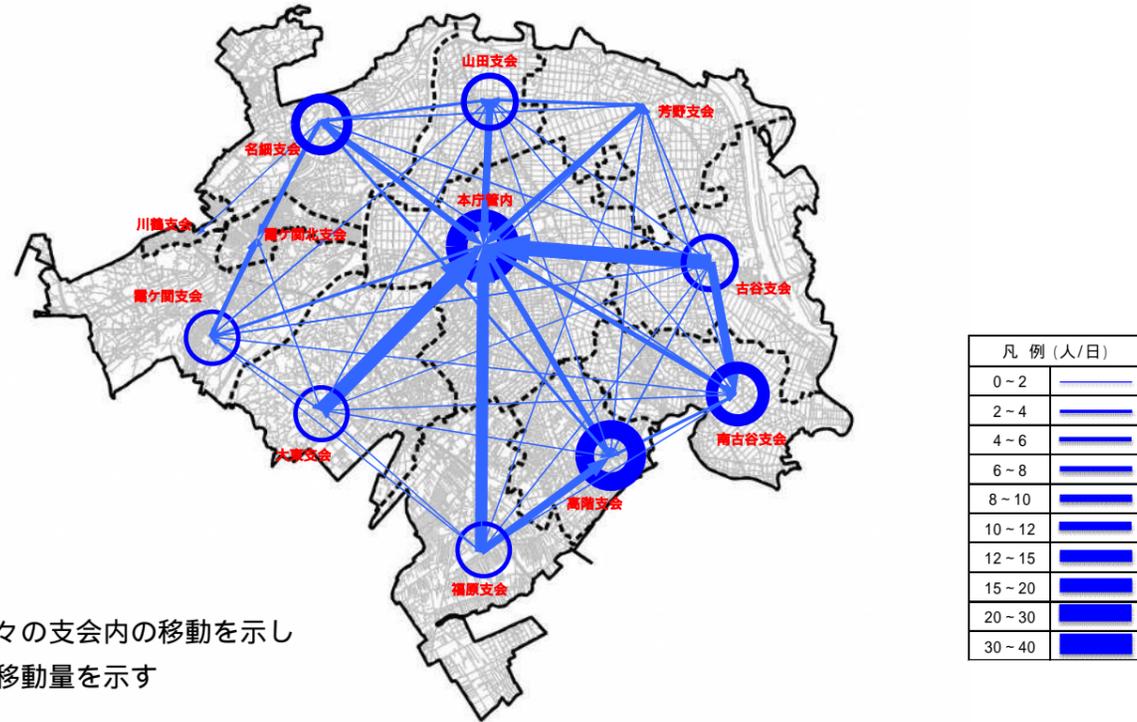


## 5. 移動ニーズ

「川越市都市・地域総合交通戦略 アンケート調査 平成 29 年 3 月」より移動ニーズを集計・整理しました。

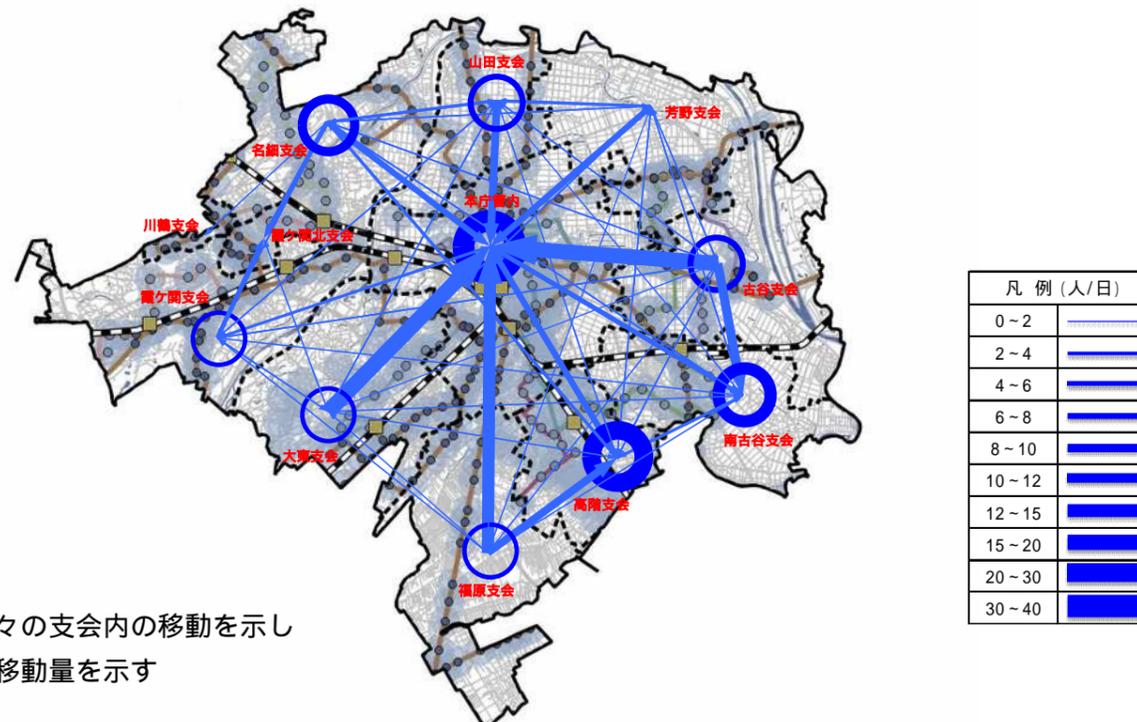
### (1) 移動ニーズ(人/日)

商業施設、医療機関、公共施設への移動目的を対象に利用頻度から 1 日あたりの移動人数に換算した支会間の移動ニーズを示します。中心市街地への移動ニーズが高いのが分かります。



円は各々の支会内の移動を示し  
線幅で移動量を示す

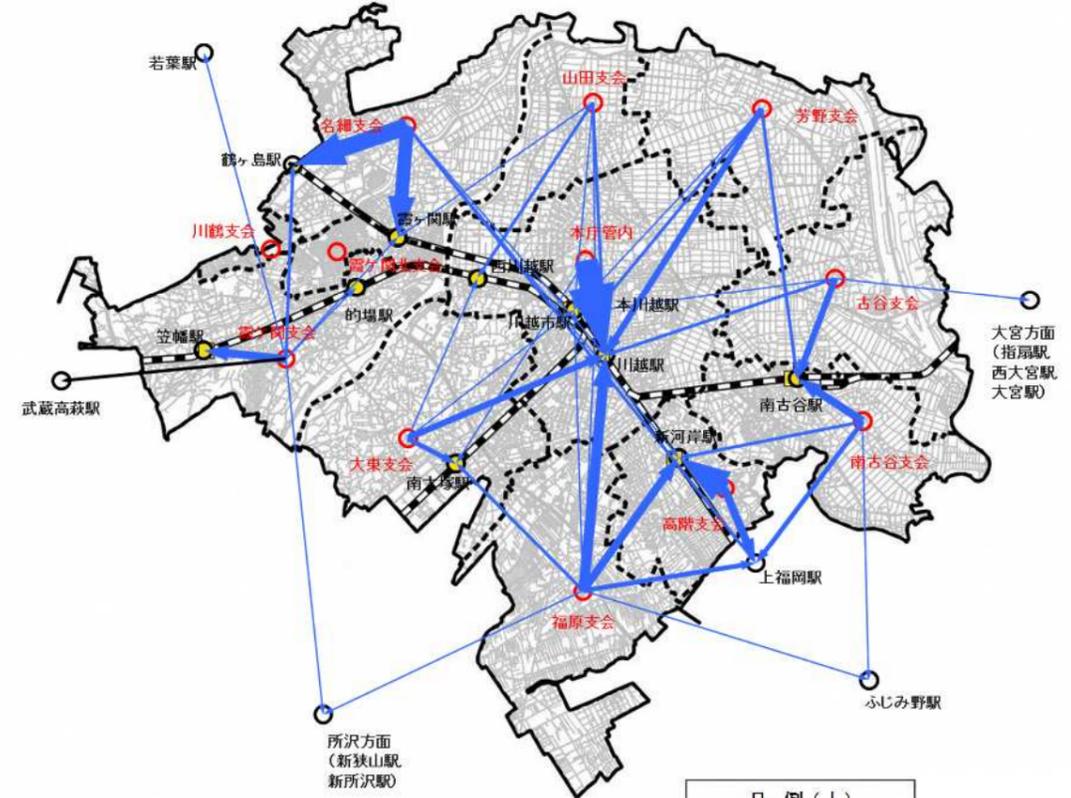
図 移動ニーズ



円は各々の支会内の移動を示し  
線幅で移動量を示す

図 移動ニーズ(鉄道、バス路線等を重ね合わせたバージョン)

<参考> 駅への移動ニーズについて



各々の支会から駅までの移動を示し、  
線幅で移動量を示す。